

生死を厭えば、生を失ってしまふ。

癌闘病中の作者が死と真向かって綴った魂の五行歌と次世代に伝えるメッセージ

叶静游 五行歌十対談集

生死一如

癌患者こそ
豊かな夢を見ることだ
先を見詰めて
日夜を満たす
嬉しい朝が来る

私が最期に伝えたいことは、癌患者こそ豊かな夢を見るべきだということです。励みやら学びということでしょう。先を見詰められる豊かな夢があれば、癌患者でも日夜を満たし、うれしい朝を迎えられるということです。

詩歌にとって「死」は重要なテーマです。著者が道元禅師の『正法眼蔵』を講じる曹洞宗の若き求道者、菅原研洲師と五行歌をめくり語りあった「生死」の問題は、あなたの心にきっと大きな勇気と希望の灯を点してくれるでしょう。本書は鶴見和子の『遺言』に匹敵する、叶静游の魂のメッセージです。



かろう せいゆう
●著者 **叶静游** (本名・和田静夫)

癌との戦いに明け暮れたこの1年余、「生老病死」についてこれほど深く考えたことはありません。本書は、癌と寄り添いながらなお果敢に生きる私のお別れのあいさつであり、同じ病に生きる癌友へのエールです。



すがわら けんしゅう
●対談者 **菅原研洲**

「生き抜く」ことは「死に抜く」こと。死もまた、この世の真実を表わしています。たんに自分の生を生き抜くだけでなく、「生死一如」のなかで世界平和という高い理想をやり遂げ、次代に継承しようという強い思いを感じ取りました。



四六判 244P
定価 (本体2,000円+税)

●ご注文はお近くの書店、ネット書店または桜出版へ
叶静游 五行歌十対談集 「生死一如」(しょうじ いちによ)
ISBN978-4-903156-10-1 C0095



〒162-0835 東京都新宿区中町1番地
電話 (03) 3269-3420
FAX (03) 3269-8480
E-Mail sakuraco@leaf.ocn.ne.jp